SRA GROUP GSLetterNeo Vol.112
2017年11月

生きものとしての情報を効果的に共有する環境への取り組み

方 学芬、土屋 正人
Fang Xuefen, Masato Tsuchiya

◆ はじめに

現在、多数の情報共有・コミュニケーションサービスのツールが利用されています。今回はその中から、LINE、WeChat、Slack、Dropbox、Google ドライブを使ってみた経験を踏まえて、「生きものとしての情報」を効果的に共有する環境への取り組みについて、書いてみたいと思います。

◆ 既存ツールを利用してみて

LINE

LINE 社が提供する、最も利用されている SNS サービスのひとつです。家族やママ友、サークル活動などのグループ、および友達との 1 対 1 のチャット、ビデオ通話、音声電話などで利用しました。便利だと感じたのは次の点です。

- 操作が簡単、チャット形式で発信しやすい
- スタンプを使った気楽なやりとりができる
- 相手がメッセージを読んだかどうか分かる

WeChat（微信）

2011 年よりテンセント（騰訊）が提供しているサービスで、2016 年 11 月の月間アクティブユーザ数 8.46 億人、56 万の企業がアカウント持つという、メッセージャツールを超えて生活やマッケーティングのプラットフォームとなっているものです。同級生や親族、趣味の集まりなどのグループで利用しました。便利だと感じたのは次の点です。

- イベント毎に簡単にグループを作ることができる
- 家族や友達との連絡が取りやすい
- 友達との交流が盛んになる
- 中国にいるときは WeChat Pay（微信支付）がショッピング、タクシー、チケット、ホテル予約などに利用できるため、日常生活で困らない

Slack

2013 年アメリカ発のサービスで、開発者の間でよく利用されています。便利だと感じたのは次の点です。

- シンプルな UI で使いやすい
- 誰でもチャットルーム（チャンネル）を開設でき、出入りは自由
- プライベートチャンネル（グループ）は出入りや閲覧を制限できる
- 1 対 1 のダイレクトメッセージで特定の人とやり取りできる
- やり取りを保存でき、検索も簡単
- 画像や資料などをドラッグ &ドロップで共有できる

Google ドライブ

2012 年より Google 社が提供するオンラインストレージサービスです。個人用ファイル保管、家族間の写真共有、PTA 活動でのファイル共有などで利用しました。便利だと感じたのは次の点です。

- ドキュメント、スプレッドシート、スライドなどのファイル編集機能を無料で利用できる
- ブラウザ上で簡単に共有、共同編集できる
- ファイル削除後に回復できる

Dropbox

2008 年にオンラインでファイルを保管、同期、共有するサービスとして始まり、以降、様々なデバイスへの対応で認知度が高まりました。2013 年には Dropbox Business 版も開始されています。

2014 年から個人用映像・画像の保管や外部とのファイルの引き渡しのためにフリー版を利用し、2016 年からは仕事での共同作業の利便性検証のために、ビジネスプランを利用しました。便利だと感じたのは次の点です。

- フォルダとして利用できる
- ファイルのアップロードが簡単
- いつ、どこからでもアクセスでき、効率アップ
- ファイルをダウンロードしなくても内容を確認できる
- ビジネスプランの場合、容量制限を意識せず利用できる

◆ 情報を効果的に共有する環境

ここまで書いて来たように情報を共有する仕組みは様々ですが、便利である一方で気になる点もあります。そこに焦点を当てて、現在取り組んでいる、情報を効果的に共有する環境について記してみます。

◆ 情報共有の何が問題か

さまざまなチーム共同で創造的な仕事を遂行するために、図 1 から図 5 までに示したように情報共有する際の問題として、共有したい情報が分散されていることが挙げられます。そのため情報共有には情報連携が不可欠ですが、情報共有ツールと連絡ツールが分散されているとうまくいきません。

後からふりかえる時にやりとりを再現できなかったり、個人を軸に情報が展開されると一つの関心事の情報を追うのが難しかったり、どのような状況でどのように対処した、といった情報が残されなかったりします。

また、非効率で間違いが発生しやすくなります。個人ベースで保管していると保全性が保証されなかったり、ファイルを相手に送ったかどうかを把握し難くかったり、誤送信や情報の変更管理の問題、情報漏えいのリスクもあります。

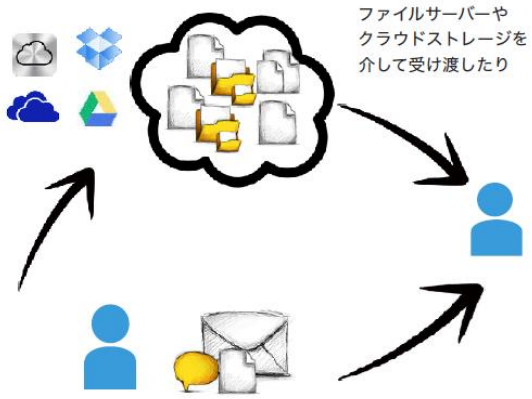

図 1　日々の業務で様々なファイルをやりとり

図 2　メールを介して、様々な情報を共有／交換

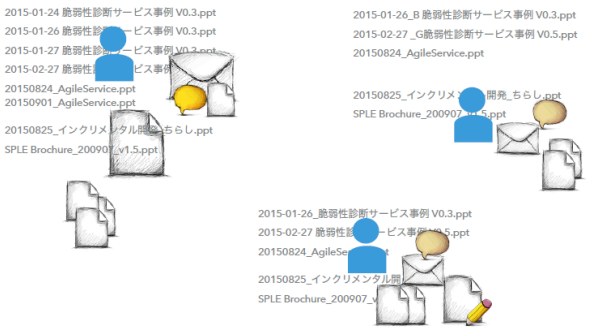

図 3　メールでファイルを交換

図 4　サーバで共有、メールで連絡

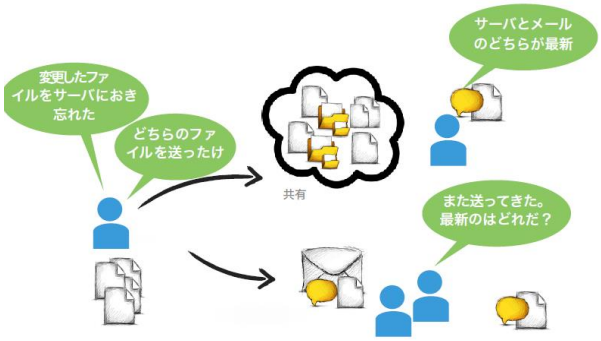

図 5　ファイルの多重管理

◆ 共創と創造の循環

情報を「生きもの」として捉えることで、効果的な共有に必要なものが見えてくると思います。

「生きもの」ですから、次の三つの視点で考えます。

- 情報は時間と共に成長、発展していく
- 情報は新しいコミュニケーションを作り出す
- 情報はまた新しい情報を生み出す

図 6　共創循環フロー

やりとりした情報とその来歴について、例えばファイルであれば、次のようなことが分かる仕組みが必要になります。

- いつ、誰が、ファイルを作成したのか
- いつ、誰が、ファイルを送ったのか
- 最後に送ったのはどのファイルなのか
- いつ、誰が、どのファイルについて意見を述べたのか
- それに対して、誰が、何を回答したのか
- いつ、誰が、どのファイルを改訂したのか
- なぜこのように改訂したのか
- 改訂したものは送ったのか

◆ 終わりに

共創と創造の循環を支える環境ができることによって、ファイルなど対象物に関する意見や質問、回答などの情報を残して共有することができます。

「ファイルが別のファイルを参照している」「これら一連のファイルを送付した」といったファイル間の関連情報はもとより、送ったファイルが「どの時点のものなのか」「何と一緒に送ったのか」「どのような意見があり、その後どのように改訂されたのか」といった作業履歴を追うことができます。さらに複数組織での共同作業でのやり取りも残すことができます。

この取り組みの具体的な成果については、改めてご紹介できればと思います。

GSLetterNeo Vol.112
2017 年 11 月 20 日発行
発行者●株式会社 SRA 先端技術研究所
編集者●土屋正人

バックナンバを公開しています●http://www.sra.co.jp/gsletter
ご感想・お問い合わせはこちらへお願いします●gsneo@sra.co.jp

株式会社SRA
〒171-8513 東京都豊島区南池袋２－３２－８

夢を。Yawaraka Innovation
やわらかいのべーしょん